癒しの高原霧ヶ峰

東山田　高木　マサ

近年の地球温暖化の影響だろうか、諏訪地方の気象の変化を実感する。そんな中、今季初の積雪を見た２月、早速、スノーシューを楽しむため、霧ヶ峰に向かった。白一色に覆われた高原は、静寂そのもの。

八島湿原を周回しながら、楽しかった昨年８月末の自然観察会に思いを巡らした。中村先生の先導で、車山肩から七島八島まで、秋色の花々や高層湿原の学術的価値等お聞きしながら、同じように見えるが異なった花の種類や見分け方等を教えていただき、とても興味がわいた。

夏の盛りと違い、霧ヶ峰湿原植物群落の花は、夏の名残を感じさせ、思いがけず目にした可憐な花に、心で歓声をあげ、とても幸せな気持ちになったことを思い出す。

１昨年、霧ヶ峰自然保護センターの職員から、自然環境保全について多くの課題を知った。古来、諏訪の人々の暮らしと密着し、採草や火入れにより護られてきた雄大な草原や樹叢が、環境の変化に伴い、森林化の拡大、帰化植物による植生の変化、野生動物による食害等が進んでいる現実に心を痛めた。

毎年、これらの課題解決に取り組んでいる人々の努力や啓発活動が報われ、豊かで貴重な霧ヶ峰高原が未来へ引き継がれるよう、願わずにはいられない。

車山の肩より（ヤマハハコと蝶々深山）

霧ヶ峰に魅せられて

東鷹野町　高木　正幸

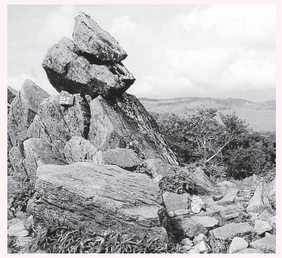
昨年の８月、町の「八島ヶ原自然観察会」に参加して、霧ヶ峰・八島ヶ原湿原を散策しました。改めて高原の景観に魅せられました。

40年前、６歳と３歳の子どもを連れて、八島ヶ原湿原から霧ヶ峰までハイキングしたことを思い出しました。霧ヶ峰にはその後もスキーやニッコウキスゲを見に、何回か訪れました。そのたびに高原から眺める自然の雄大さ、山の空気のおいしさなど、感動を覚えました。今回の観察会では、ガイドの方に山や草花など説明していただき、より楽しく観察することができました。

八島ヶ原湿原は今から１万２千年前、縄文時代のころからでき始めたこと、また八ヶ岳から霧ヶ峰にかけて、縄文人が多数住んでいて「縄文銀座」とも言われていたとお聞きし、われわれの先人、縄文時代に思いを馳せながら散策しました。

今、諏訪では観光客誘致に力を入れているようですが、諏訪の最大の魅力は、自然環境、山の景観ではないでしょうか。人工的資源もさることながら山々が織りなす景観、澄んだ空気、おいしい水など、都会では味わえないものです。私たちの自然の宝を都会の人たちにも、ぜひ体験してもらいたいものです。

今度、町に自然観察会という組織があることを知り、入会し自然を楽しむことにしました。



物見石

～こんな園児に育ってほしい～

とがわ保育園

「自分や人を大切にできる子ども」

とがわ保育園には、園舎の横を流れる砥川のせせらぎのように清らかに育ってほしいという願いが込められています。園舎には日だまりスペースなどの夢のある環境が考えられています。その中で、お友達と共に四季折々の自然を体験しながら、自分や人を大切にできる人に育ってほしいです。（佐久美鈴園長）

さくら保育園

「温かな心を持ち、たくましい子ども」

長く厳しい冬が終わり、春の訪れを象徴するさくらは、下諏訪町を代表する樹木です。大地にしっかりと根を張り、春・夏・秋・冬には、私たちの心に潤いを与えてくれます。優しさと思いやりに満ちた温かな心を持ちながら、しっかりと自分の思いを伝えられる、たくましい子どもになってほしいと思います。（須崎まゆみ園長）

みずべ保育園

「何にでも挑戦し、笑顔あふれる子ども」

みずべ保育園は諏訪湖の近くに位置し、公園もあり恵まれた環境にあります。たくさんのお友達と一緒に遊び、思いやりや優しい気持ちを持てる子ども、さまざまな体験を通して何にでも挑戦する子ども、何でもよく食べ、元気いっぱい笑顔あふれる子どもに、育って欲しいと願っております。（茅野朋子園長）

教育委員会からのおしらせ

★町民大学のおしらせ　―下諏訪を学ぶ ①―

演　題：「藤森成吉の文学」　　講　師：市川　一雄
日　時：**６月12日（日）　午後１時30分～午後３時**
場　所：下諏訪総合文化センター２階集会室

藤森成吉は諏訪出身。昭和初年から戦後までプロレタリア文学の旗手として活躍した。東大同期の芥川龍之介とは文学上の位置を異にしたが、互いに意識するライバル的関係にあった。代表作に戯曲『何が彼女をさうさせたか』歴史小説『渡辺崋山』がある。成吉が固守した<民主主義文学>が内包する「政治と文学」の問題にも踏みこんで考えてみる。（講師コメント）